

CSR Report Digest 2017

CSR

最高の現場力



大阪府中央区北久宝寺町3-6-1
<http://www.konoike.co.jp>



鴻池組はFun to Shareに参加しています



企業理念 "KONOIKE SPIRIT" と鴻池組のCSR



CSR 活動方針

- ① コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化
 - ② 働きがいの向上
 - ③ CR活動※によるお客様との共有価値の創造
 - ④ 地域社会との融和
 - ⑤ 環境負荷の低減と環境関連技術の練磨
- ※「CR活動」とは…Customer Relations活動の略で、お客様から寄せられる信頼の獲得とその維持・発展のために行う活動のことです。

2017年度CSR目標

| 活動方針 | 活動内容 | 具体的取り組み | 数値目標 |
|------------------------|-------------------------|------------------------|----------------------|
| ① コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化 | 内部統制の強化 | 内部監査体制の定着 | - |
| | BCPの強化 | 代替拠点の機能強化 | - |
| | コンプライアンス意識の向上・強化 | 「企業行動指針」の周知徹底 | - |
| | | コンプライアンスeラーニングの実施 | 2回 |
| | 情報セキュリティの向上 | 情報セキュリティeラーニングの実施 | 4回 |
| | | 情報漏えい防止のための入出口対策強化 | ファイアウォール強化実施 |
| ② 働きがいの向上 | 重大な労働災害の絶無 | 死亡・永久労働不能(障害1~3級)災害の絶無 | 0件 |
| | 労働安全衛生管理の徹底 | 目標度数率(休業4日以上労働災害)の達成 | 0.6以内 |
| ③ CR活動によるお客様との共有価値の創造 | ダイバーシティ(多様性)の推進 | 新卒採用者に占める女性割合増大 | 5%以上(2020.03まで) |
| | ワークライフバランスへの支援 | 有給休暇取得率の向上 | 40%以上 |
| ④ 地域社会との融和 | お客様から寄せられる信頼の獲得とその維持・発展 | お客様アンケート評価点数、工事成績評定の向上 | 前年度実績以上 |
| | | CRに関するeラーニングの実施 | 2回 |
| ⑤ 環境負荷の低減と環境関連技術の練磨 | 地域社会とのコミュニケーション促進 | 現場や会社施設見学会の参加者数増大 | 年間延べ3500名 |
| | ボランティア活動の拡大 | 地域ボランティア活動への参加件数増大 | 年間延べ250件 |
| | 低炭素社会の実現 | 施工段階におけるCO2排出量削減(原単位) | 2013年度比26%削減(2030まで) |
| | | 再生可能エネルギー案件への取り組み | 3件 |
| | 循環型社会の実現 | 建設副産物リサイクル率の向上 | 96%以上(2019.03まで) |
| | | 3R活動の積極的な実施 | - |
| | 自然共生社会の実現 | 環境修復工事の積極的な実施 | 年間10件 |

Contents - CSR Report Digest 2017 -

- 01. 社長メッセージ、企業理念、鴻池組のCSR
- 04. 低炭素社会の実現に向けて
- 05. 循環型社会の実現に向けて
- 07. 自然共生社会の実現に向けて
- 10. お客様とのつながり
- 11. 従業員との関わり
- 12. 地域社会との関わり
- 13. コーポレート・ガバナンス、CSR推進体制

対象 ● 組織 株式会社鴻池組単体 ● 期間 2016年度(2015年10月1日~2016年9月30日)

鴻池組の未来に大切なもの

信頼

お客様の笑顔のために CSRも新たなステップへ

代表取締役社長 葛田 守弘

2017年度は、鴻池組がCSRを重視した経営を行うていくことを内外に宣言してからちょうど10年の節目にあたります。これを機に、さらに信頼をお寄せいただける企業へと成長することを目的として、ガバナンスの強化とCSR経営の充実に向けた組織改正を実施いたしました【P3-P14に関連記事】。

また、東日本大震災をはじめ、近年各地において発



生じた地震被害や、地球温暖化に起因するとも言われる大規模な洪水被害などの影響もあり、社会の安心と安全に貢献する技術、豊かな環境を実現する技術が広く社会から求められる中、当社もそうした技術の研鑽に努めてまいりました【P3-P8に関連記事】。

さらに、協力会社を含めたチームKONOIKEとして掲げるスローガン「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!」の具現化を目指し、当社は現在お客様との永続的な信頼関係構築に向けたCR(Customer Relations)活動に注力しております

【P10に関連記事】。今後こうした活動にもCSRの視

点によるアプローチを採り入れ、お客様が直面される社会的課題、環境面の課題解決へ当社の技術やサービスをもつて貢献するという側面を強化し、将来にわたって「お客様に選ばれる企業」となることを目指していきたいと考えております。

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」や、異例の早さで発効に至った「パリ協定」の内容が示しますように、環境問題のみならず貧困や人権侵害などの社会問題についても、国境を超え、官民の枠を超え、解決に向けた企業の自発的な取り組みが求められる時代となっております。

これらのガイドラインには、社会と企業がともに永続的な発展を目指していくための課題が示されていますが、解決に向け鴻池組として重要視すべき活動は何かということ、全従業員が等しくかつ明確に意識する必要があると考えました。そこで、節目となる2017年度を機に、5つの「CSR活動方針」を掲げるとともに、年度単位に「CSR目標」を定め、その達成度について「CSR報告書」やホームページを通じて広く社会に開示していく形をとることいたしました【P2に関連記事】。

誰もが安心して過ごせる

環境

- 1 低炭素社会の実現
 - 2 循環型社会の実現
 - 3 自然共生社会の実現
- 環境負荷の低減と
環境関連技術の練磨
- 環境への取り組み
- 鴻池組が挑む

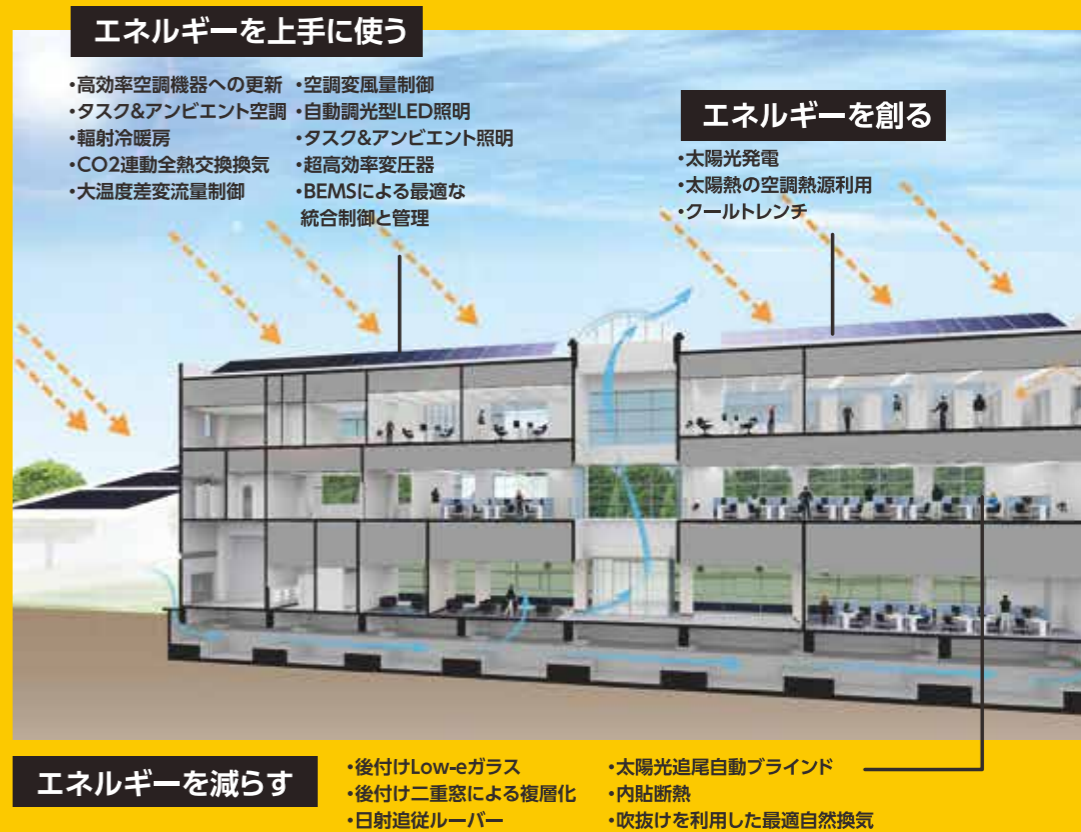
よりよい環境のために
鴻池組ができること

異常気象が引き起こす災害など私たちの暮らしを脅かす事象が発生し、環境問題がより身近に感じられる昨今、鴻池組は自然の力を活かしてエネルギー消費を抑える技術や汚染された環境を修復する技術を日々磨き続けています。

また、自然に直接手を加える業種であることの責任を重く受け止め、工夫を凝らした生産活動で環境負荷を低減することや、自然界のあらゆるいきもの達と永く共存していくための取り組みにも力を注いでいます。

Environment

地球の未来のためにCO2をミニマム化 低炭素社会 の実現に向けて



「ZEB実現に向けた取り組み」

技術研究所のZEB化改修

東日本大震災以降、建築物の省エネルギーへの関心が一層高まるのを受け、鴻池組ではZEBの実現に向けた研究開発に取り組んできました。鴻池組の技術研究所でのZEB化改修は、その成果を既存ビルの改修という方法で実現します。また、建物を使いながら改修工事を行うことで、今後増加が予想される既存建物のZEB化改修のモデルケースにするとともに、採用した多くの最新要素技術を検証する体験型実証棟とする予定です。

なお、当工事は、「平成28年度ネット・ゼロ・エネルギー・ビル実証事業」として採択されたことから、ZEBの実現に寄与する高性能建材や設備システムに関わる工事費用の一部が国より補助されます。地球温暖化の防止という喫緊の課題への解決策のひとつとして、お客様への提案に活かしていきます。

社内各部門の知恵を集めた「総合力」のたまもの

東京本店 設備エンジニアリング部

課長代理 川原 淳一



技術研究所本館ZEB改修工事は、建物のゼロエネルギー化を既存建物のリニューアルという方法で実現を目指すものです。また、社内各部門の知恵を集めた「総合力」のたまものでもあります。

本計画の幹とした部分は、執務環境の快適性重視を念頭に、ヒアリングによる実際の使い方の把握と、各室利用時間等の細かな見直し作業です。さらに、汎用性が高く、使い易い技術を選択しました。

本稼働は2017年2月からとなります。ゼロエネルギー化の成果を目にすることをとても楽しみにしています。

ZEB (Net Zero Energy Building) とは…
快適な室内環境を保ちながら、高断熱化・日射遮蔽、自然エネルギー利用、高効率設備により、できる限りの省エネルギーに努め、太陽光発電等によりエネルギーを創ることで、年間で消費する建築物のエネルギー量が大幅に削減されている建築物。(経済産業省による定義)

■ ZEB改修工事の概要

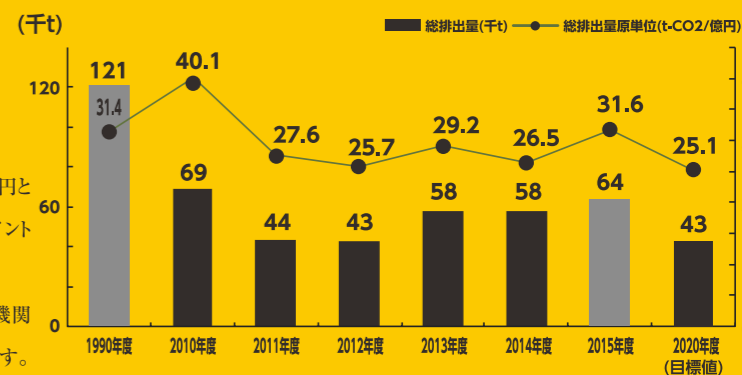
エネルギーを「減らす」、「上手に使う」、「創る」という3つのコンセプトのもと、採用する要素技術を検討し、一次エネルギー消費量は一般的な基準ビルに対して51.7%削減することができました。これに太陽光発電設備による創エネルギー分を加えると、削減率は59.7%となります。

| | |
|-------|-----------------------|
| 名称 | (株)鴻池組 筑波技術研究所ZEB改修計画 |
| 用途 | 研究所(改修対象棟は事務所用途) |
| 所在地 | 茨城県つくば市桜1-20-1 |
| 構造・規模 | 地上3階 鉄筋コンクリート造 |
| 面積 | 建築面積1,206㎡、延床面積3,104㎡ |
| 設計・施工 | 株式会社鴻池組 東京本店 |
| 工期 | 2016年9月～2017年1月 |

「施工段階におけるCO2排出量の推移」

2015年度の施工段階におけるCO2排出量原単位は、31.6t-CO2/億円となり、2014年度比で5.1ポイント悪化し、1990年度比でも原単位で0.2ポイントの増加となっています。

近年、工事量はほぼ横ばいですが排出量が増加しており、建設重機関係の効率的な運用を計画し、CO2排出量原単位の削減に努めています。



循環型社会 の実現に向けて

活かせるものは最大限に活かす



▲ 風力選別後の手選別状況

「広島市災害廃棄物処理業務」

災害廃棄物のリサイクル率99.8%を達成

2014年8月19日から20日にかけて広島市を中心に発生した豪雨により同市北部に位置する安佐北区や安佐南区の住宅地を大規模な土砂災害が襲い、尊い命の犠牲を伴う甚大な被害が生じました。

この災害で発生したかき類や土砂等の災害廃棄物は、広島市内の9ヵ所の1次仮置場に集積されましたが、その総量は約58万トンと推定され、同市の既存の廃棄物処理施設では対応しきれない量でした。これらの災害廃棄物の処理業務については、当社を幹事会社とする共同企業体が2014年11月に総合評価落札方式にて落札し、広島市南区出島地区に中間処理施設を設置して、2015年2月より処理を開始しました。

処理にあたっては早期に行うことが必要な上、なるべく多くの災害廃棄物をリサイクルすることが求められました。



▲ 処理施設全景



▲ 思い出の品リスト



▲ 1次仮置場



▲ 中間処理施設での1次分別状況



▲ 振動・磁力・風力選別機

現場が一丸となって期待に応えた

広島市災害廃棄物処理工事事務所 副所長 安達 忍



災害廃棄物は、土砂、岩石、コンクリートから、木材、金属類、紙類、プラスチック類など多種多様なものの混合物から成り立ち、大型の破砕機、選別機械などに加え、人力による手作業を適切に組み合わせて分別処理をしました。処理後の土砂は埋立材料、砕石は路盤材、木材はバイオマス原料といったように種類に応じたリサイクル処理を行いました。

そして2016年の2月上旬、豪雨災害発生から1年7ヵ月、無事に処理を完了し、最終的には約51万トン进行处理し、リサイクル率は目標の98.9%を上回る99.8%を達成しました。

また、本業務では、廃棄物に紛れ込んだ被災者の方々の「思い出の品」を見つけ出し、持ち主の方にお返しすることも、もうひとつの大きなテーマでした。手作業による丁寧な選別の結果、土砂に埋もれていた多くの品々を見つけ、持ち主の方々にお渡すことができました。

職員や作業員が一丸となって業務を遂行し、微力ながらも被災地復興の一助となれたことを誇りに思う一方で、このような災害が二度と発生しないことを切に願ってやみません。

| 処理後物 | 重量(t) | 重量比率 |
|----------------------------|----------------|---------------|
| 分別土砂 | 500,140 | 97.43% |
| 破砕コンクリートから | 2,172 | 0.42% |
| 金属類 | 300 | 0.06% |
| 非塩素系可燃物(紙類、プラスチック類、木片等) | 2,410 | 0.47% |
| 木材チップ | 2,401 | 0.47% |
| 根・枝葉 | 4,830 | 0.94% |
| 処理困難物(廃タイヤ、消化器、ポンペ、バッテリー等) | 14 | 0.00% |
| 小計 | 512,267 | 99.79% |
| 塩素系可燃物(塩ビ管等) | 323 | 0.06% |
| 残渣(瓦、レンガ等) | 746 | 0.15% |
| 不燃物 | 5 | 0.00% |
| 小計 | 1,074 | 0.21% |
| 統計 | 513,341 | 100.0% |

環境負荷低減型ソイルセメント連続壁工法

「ECO-MW工法を支える特許技術」

ソイルセメント高流動化技術で、建設汚泥発生量と二酸化炭素排出量を大幅に低減

従来のソイルセメント連続壁工法では、施工性を確保するために必要相当量のセメントミルクを注入するため、大量の廃棄汚泥が発生し、その処理が問題となります。

ECO-MW工法では、高い分散効果を有する流動化剤により、ソイルセメントを高流動化することで注入量を削減し、廃棄汚泥の発生量を大幅に減らし、環境負荷を低減することが可能です。その上、従来工法以上の施工性を確保し、強度を低下させることなく均質かつ緻密なソイルセメントを造成することができます。

この工法を支えているのが、鴻池組が開発したソイルセメント高流動化技術です(特許第3554496号)。

従来工法

セメント+水+ペントナイト

セメントミルクの注入量を低減

建設精度向上

ECO-MW工法

セメント+流動化剤+水

緻密で高品質なソイルセメント

流動化剤(主剤・助剤)

廃棄汚泥発生量を大幅に削減

高い流動性

攪拌性向上

▲ 環境に優しい技術です
従来工法と比べ、建設汚泥を50~60%に、セメントなどの材料使用量減および汚泥運搬車両の削減等により、二酸化炭素排出量を40%程度削減します。

▲ 施工性・品質が向上します
掘削トルク低減、泥土処理の作業性向上、芯材の挿入性向上などの効果により施工サイクルタイムを短縮します。芯材の建込精度が飛躍的に向上、また、少ない水量で高い流動性を与えるため、高密度かつ均質で、強度・止水性に優れた高品質なソイルセメントを提供します。

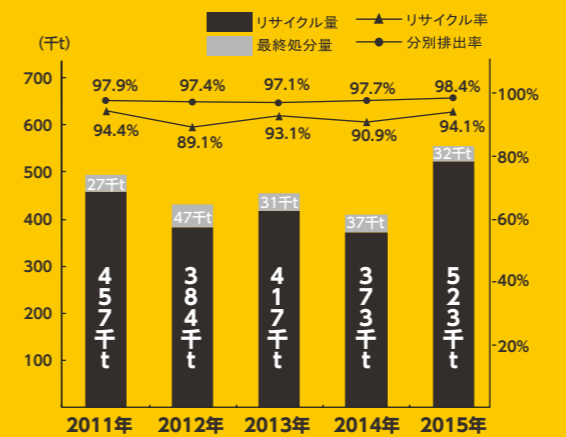
▲ 経済性に優れています
使用材料(セメント・水・ペントナイト)のコストおよび建設汚泥の処分費の削減、また、サイクルタイム短縮による工期短縮により、工事費のコストダウンが可能です。

▲ 造成した連壁

「建設廃棄物の排出状況」

2015年の建設廃棄物の排出量は、事業活動の活発化により2014年比では大幅に増加し、555千tでした。分別排出の推進により分別排出率は0.7ポイント上昇し、適正な再資源化施設への排出によりリサイクル率が3.2ポイント増加したため、最終処分量が減少しています。

2016年も3R活動※と分別排出、再資源化能力の高い中間処理施設へ処理委託することによってリサイクル率を向上させ、最終処分量の低減に努めます。



※3R活動とは…循環型社会実現のために大切なReduce(リデュース:廃棄物の発生抑制)、Reuse(リユース:再利用)、Recycle(リサイクル:再資源化)の3つの活動を指す言葉です

「マテリアルバランス」

2015年の国内事業活動により発生した環境負荷や環境配慮について、電力などの資源の消費をINPUTとし、建設副産物やCO2をOUTPUTに示して、マテリアルフローとして表しています。

環境や社会に大きな影響を与える項目については、環境マネジメントシステムに基づいた継続的改善に努め、生物多様性及び地球温暖化防止などの環境保全と建設副産物削減など循環型社会の実現に取り組んでいます。

| INPUT | 事業活動 | OUTPUT |
|--|---|---|
| ● エネルギー 【電力】 オフィス 856千kwh 工場(グリーン電力含む) 15,574千kwh 【化石燃料】 軽油 16,002kl 灯油 102kl 重油 5kl 水 329kl ● 主要建設資材 生コンクリート 178,499m ³ セメント 1,360,271t 鋼材 17,373t 鉄筋 39,014t ● グリーン調達 コピー用紙(オフィス) 14,199,259円 再生機アスファルト混合料 20,954t 高炉セメント 44,459t 生コンクリート(再生セメント) 76,629m ³ 再生材料を使用した型枠盛土材等 46,291m ³ 路盤材 54,196m ³ | ● 土木工事・完成工事高 791億円 <small>(会社事業年度:2014年10月1日~2015年9月30日)</small> ● 建築工事・完成工事高 1,361億円 <small>(会社事業年度:2014年10月1日~2015年9月30日)</small> ● 環境保全 地球温暖化の防止 CO2の排出抑制 省エネルギー 電力使用量の低減 循環型社会の構築 3R (リデュース・リユース・リサイクル) 公害防止 生物多様性、大気汚染、水質汚濁、土壌・水質汚染、騒音・振動など | ● 建設副産物 【建設発生土】 発生量 378,638m ³ 有効利用率 100% ● 産業廃棄物 発生量 555,390t 中間処理量 522,890t 最終処分量 32,500t リサイクル率 94% 分別排出量 546,698t 分別排出率 98% うち特別管理産業廃棄物・最終処分量 2,450t ● CO2 排出量 64,000t-CO2 排出量単位数 31t-CO2/億円(施工高) |

自然共生社会 の実現に向けて

あらゆるいきものと共に暮らす



「いきものプラス®」

生物多様性簡易評価ツール

私たちは、多様な生態系から成る自然環境の中で暮らしています。そのため、建物や街づくりにおいては周辺環境を豊かに育むことへの配慮が求められています。「いきものプラス」は、建築物の設計においてCASBEE(建築環境総合性能評価システム)に準じて生物多様性との関連が深い項目に関する取り組みを容易に評価できるツールとして開発※しました。

このツールには、設計内容の改善を支援する評価機能と、より分かりやすいプレゼンを支援する付加機能があります。評価機能を用いることで原設計案より高い評価となる変更案が自動表示され、設計内容の改善が可能です。また、付加機能として植物種とそれに誘引される動物(鳥類、蝶類)の代表的な種との生物間ネットワークを表示し、計画地への誘致種を確認することが可能です。

※鴻池組および安藤・間、浅沼組、西武建設、鎌高組、東亜建設工業、西松建設、三井住友建設による共同開発



▲「いきものプラス」ツールの構成画面

小さな自然を大切にする気持ちを提案に込めて

設計本部 建築設計第2部 部長 門脇 達志



私たちが携わる建設業は、少なからず現場周辺の環境を改変しながら人の生活を豊かにすべく常日頃活動しています。そんな中で「いきものプラス」は、プロジェクトを植物・鳥・昆虫たちがより住みやすい環境にシフトすることを助けてくれるシステムです。

光が丘清掃工場建替計画の総合評価落札方式の入札時に、このシステムを使って提案しました。隣接地が光が丘公園でもあり、生物多様性への配慮と併せて、野鳥誘引によって樹木の害虫被害が減り、管理が軽減される等の利点をアピールしました。

私たちが建設工事をする時には、地域や近隣住民の方々に工事概要を説明し、騒音・振動・交通安全に最大限の心配りをします。それが礼儀であり、また、後々その施設を使う人が、地域の方々と心地よいお付き合いをしていただける基礎を造るものだと思います。いきものたちもその「近隣さん」に加えることで、生活をより豊かにしていくという建設業の本道につながるのでは、と私は考えます。

計画地の植生と関わりの深い鳥類



「桑名市源十郎新田事案支障除去対策工事」

2007年9月、三重県桑名市に位置する、二級河川員弁(いなべ)川と藤川の合流点に近い旧産業廃棄物処分場近傍の河川敷からポリ塩化ビフェニル(PCB)等の有害物質を含む油の滲出が確認されました。

この有害物質の拡散防止と除去を目的とする本工事(工事期間:2013年12月~2017年9月)は、行政代執行により実施されている恒久対策工事です。

油の河川への流出を防止するために、汚染区域をエリア毎に区分して鋼矢板で囲い込み、多数の集油井戸と地下水水位以下まで掘削した箇所から、国内でも前例がない規模でPCBを含む油を回収しています。

PCB汚染源であるコンデンサ素子が投棄されていたエリアおよび河川に隣接し洪水時に冠水するエリアについては、汚染土壌を地下水水位以下まで掘削して除去します。掘削した箇所では地下水面上に浮遊した油を、回転ドラムに油を付着させるドラムスキマー、エンドレス回転するベルトに油を付着させるベルトスキマーを使用して回収します。洪水時に冠水しないエリアについては、径50mm以上の集油井戸を数多く設置し、吸引ポンプやベルトスキマーを使用して集油井戸内の油を回収しています。

安堵とともに大きな達成感を感じた

土木事業本部 環境エンジニアリング部 課員 花木 陽人



私は入社1年目にこの現場で初めて環境修復工事に従事しました。PCB汚染の原因とされるコンデンサ素子が投棄された「汚染源域エリア」では、このコンデンサ素子を直接目視確認しながら丁寧に回収しました。また、地下水面付近ではしみ出た溶剤臭の強い真っ黒な油のオイルスキマーによる回収を目の当たりにしました。いろいろ苦労もありましたが、私が携わったこのエリアの浄化が完了したときには大きな達成感を感じました。



▲現場全景



▲汚染源の掘削状況



▲ドラムスキマーによる油回収



▲ベルトスキマーによる油回収

「平成25年度第RD-3号旧産業廃棄物最終処分場二次対策工事」

1999年10月、滋賀県栗東市においてRD社の最終処分場から高濃度の硫化水素ガスが検出され、地下水汚染も判明しました。このため、県は同社に対して改善命令を出し、是正工事を完了させましたが、その後の調査でドラム缶などの廃棄物が埋められていることが判明しました。県はRD社にその撤去等を命令しましたが、2006年6月に経営破綻し、同社による対応が見込めなくなったことから、行政代執行により当該支障の除去等を実施することになりました。

そのうち、鴻池組JVは二次対策工事(工事期間:2013年12月~2021年3月)を行っています。二次対策工事の目的は、汚染が確認された区画の廃棄物を含む土砂等(以下、廃棄物土)の掘削除去を行うとともに、底面粘土層の修復と側面に露出した地下水帯水層の遮水および浸透水の揚水処理等を実施し、生活環境保全上の支障を取り除くことです。

これまでに水処理施設や選別処理施設の設置などを実施し、現在は廃棄物土の掘削を本格的に行っており、一部底面修復工が完了しました。掘削された廃棄物土は再資源化を図るため、選別処理施設において分別しています。まず屋外で重機と人力による粗選別(一次選別)を行い、つぎに選別処理施設内で機械と人力によるより細かい二次選別を行っています。二次選別では高分子系改質剤により廃棄物土をサラサラ状にすることで、再利用物(埋戻土・再生資材)と選別除去廃棄物(可燃物・不燃物)とに高精度で分別しています。

コミュニケーションを大切にして

土木事業本部 環境エンジニアリング部 課員 松原 梨沙



私は本社環境エンジニアリング部に身を置きながら、本現場の支援業務に従事しました。業務を行うにあたっては、様々な条件に柔軟に対応するため、行政のご担当者様や現場の方とこまめにコミュニケーションをとることを心がけました。円滑な支援業務ができたのは、皆様とともに考え、実行し、結果に対して細かく考察しながら進めたからだだと思います。廃棄物土の選別精度の向上に、少しでもお役に立てたならばとても光栄です。



▲現場全景



▲廃棄物土掘削状況



▲選別処理施設1



▲選別処理施設2

人を育て、企業も育てる

社会



Society

人とのつながりが 企業を育てる

お客様、従業員、協力会社、地域社会の人々へ企業はまさに人によって支えられ、成り立っています。

お客様の声をお伺いし、課題解決のお手伝いをする。従業員の声を経営に反映する。協力会社の方々の意見を生産性向上に繋げる。地域に開かれた現場運営で工事をスムーズに進める。そうしたさまざまな方とのコミュニケーションによって私たちの技量は磨かれています。

鴻池組は、常に社会から必要とされ、社会に貢献できる企業を目指し、これからの対話を重視する会社でありたいと思います。

鴻池組が重視する 社会への取り組み

- 1 消費者課題
CR活動によるお客様との共有価値の創造
- 2 人権・労働慣行
働きがいの向上
- 3 コミュニティへの参画
地域社会との融和

信頼関係の上に築くより良い社会

お客様とのつながり

「CR活動」

※CR(Customer Relations):お客様との信頼関係

お客様との信頼関係を築き、維持発展させる“CR活動”を推進しています。CR活動は、企業理念の三つの礎である「信頼」「貢献」「繁栄」を実践する鴻池組の行動指針であり、この活動を通じて社会からの信頼を築き上げ、「お客様に選ばれる会社」となることを目指しています。

■ お客様との共有価値の創造

お客様や社会の求める価値に対して、独自技術やサービスで応える力を鴻池組の価値として共有し、事業として創り出していきます。

「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に！」

このチームKONOIKEのスローガンは、共有価値の証とも言えるものです。

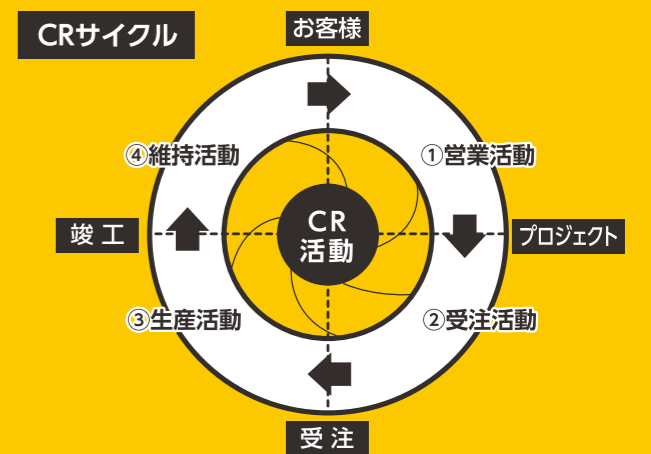
「お客様に選ばれる会社」になるためには、「品質・サービス・価格」のベストバランスの実現が重要です。「品質」は当然守られるべきものであり、将来にわたって責任を持つべきものです。また、「サービス」はお客様のご要望や課題に対して、鴻池組が独自の技術を駆使することで貢献するものです。

そして、これらに相応しい“価格”が伴うことで、「品質・サービス・価格」の理想的なバランスをチームKONOIKEとして実現し、「お客様の笑顔を最大に」の達成が可能になるものと考えています。

■ 信頼をつなぐ“CRサイクル”

鴻池組の企業活動は、営業活動、受注活動、生産活動、維持活動の4つの大きなフェーズに区分されます。CR活動は、どのフェーズにおいても途切れることのない、お客様との信頼関係をつなぐ“CRサイクル”を形成します。

お客様にはCRサイクルのどのフェーズにおいてもご満足いただけるよう、様々な場面でアンケートなどを通してご要望・ご意見や鴻池組の評価をいただいています。お客様からの声を真摯に受け止め、各フェーズの企業活動に反映することで、揺るぎない信頼関係の構築を目指しています。



「騒音・振動に関する課題を解決します」

培った技術でお客様を悩ます問題を解決

居住環境の中で騒音や振動は、建物が完成した後に問題として発生することがあります。音や振動はその姿を直接目にすることはできません。

そのため、問題の発生当初は原因が分からないことも多々あります。鴻池組ではお客様からのご相談に対して、問題を解決するために各分野の専門技術者によるコンサルティング業務を行っています。



▲ 現地調査状況(騒音)



▲ 現地調査状況(振動)

コンサルティングのフロー

- 問題発生
- お客様へのヒアリング
- 現地調査・原因究明
- 対策立案・実施
- 現地での効果確認

お客様に寄り添って解決策を検討

技術研究所 主任研究員 伊藤 真二



お客様から「不思議な音がする」、「床の揺れを感じる」等の「問題発生」の連絡を受けると、まず状況を把握するため「お客様へのヒアリング」を実施します。発生の時期、時間帯、頻度、場所および発生源の有無を確認するとともに、音や振動の特徴について擬音(ブーン、ピーなど)等を用いることで、より正確に把握します。

その後、現地での体感や計測機器による「現地調査・原因究明」を行います。このデータを分析することで原因を特定し、遮音、吸音、防振等の適切な「対策立案・実施」を行います。対策を施した後は、再び現地で計測機器による測定を行い、「現地での効果確認」を行います。この際にはお客様にもできるだけ立ち会っていただき、受忍限度に基づく主観評価も実施します。

騒音や振動の感じ方には個人差があります。そのため、お客様の立場にたって、冷静かつ科学的な判断ができるように日々努めています。

従業員との関わり

良い人材が良い仕事を生む

「人財創出プログラム」により“輝く人=財(たから)”を育てます

鴻池組では「人財創出プログラム」と称する育成方針を策定し、当社が育てていく人財＝“輝く人”を「プロフェッショナルな人」と定義すると共に、社員が“輝く人”へ成長する過程において、目指すべき人財像を「人財創出ステップ」として5段階で示し、各ステップにおいて必要となる教育カリキュラムを設定しています。



この教育カリキュラムは、職種別に設定された「専門プログラム」と、職種に、かかわらず全社員が対象となる「共通プログラム」からなり、「専門プログラム」では個々の技術力向上に繋げるため、職種ごとに必要な専門知識を習得し、「共通プログラム」では、人財育成の基本であるOJT(職場内教育)をより効果的なものにするべく、ステップごとに必要となるコミュニケーション力を体系的に身につける内容となっています。今後も鴻池組は、従業員の成長願望を促し、会社全体で育てる企業風土をさらに醸成させて、“輝く人”の創出に繋げたいと考えています。

「仕事と生活の両立支援」

昨今のワークライフバランスに対する意識の高まりをうけ、多様な働き方を選択できる社会がもたらされています。

鴻池組では、従業員が出産や育児、介護をはじめとする個々の生活状況の変化に応じて柔軟な働き方を選べるように、職場環境の整備に取り組んでいます。

育児休業制度・育児時短制度 利用者の声

仕事も子育ても諦めない

大阪本店 阪急淡路工事事務所 係員 卜部 亜理沙



現在、私には2歳と5歳のふたりの子どもがいますが、仕事を諦めることなく子育てと両立できているのは、育児休業制度と育児時短制度のおかげです。育児休業制度を利用したことによって、子どもが誕生して保育所に入るまでの間、そばで見守り、子育てできたことは有難いことでした。成長が最も目まぐるしい0～1歳の時期に子どもとじっくり向き合えたことは、とても貴重な体験だったように思います。復職するまでは、自分に戻る場所があるのか、職場で受け入れてもらえるのか、とても不安を感じていましたが、理解ある上司や同僚の方たちに以前と変わらず温かく迎えていただくことができました。今は育児時短制度を利用して働いていますが、保育所の送迎時間は各施設によって異なるため、会社に申し出ることで2時間までの就業時間の短縮が行えることは、非常に助かっています。この2時間の短縮は、家事や送迎などの物理的な都合だけではなく、私自身の気持ちの大きな余裕につながっていて、とても意義のあるものです。結婚や出産を経て、自分自身の環境は随分変わりました。働き方も変わりましたが、長い人生の中で子どもを育てられるのはほんの20年ほどだとすると、社会人としての時間の方が長くなるのだなと最近思っています。子育てをしていると、自分自身にとって勉強になり成長させられることが多いと感じますが、仕事もまた同じように自分を成長させてくれる存在です。子育てに余裕ができるまで、まだしばらく時間がかかりますが、感謝の気持ちをいつまでも忘れず仕事に取り組みたいと思っています。

「社員満足度調査」

鴻池組では、従業員の仕事に対するモチベーションや生産性を高めることを目的に、従業員を対象とした意識調査を年1回実施しています。2016年度は、2016年7月に無記名方式で調査を行い、全体の99.88%にあたる1,682人が回答しました。今回の調査では、「やりがい」「待遇」「労働条件」「企業風土」「人事考課」「人財教育」の6つの基本要因全てが前年度に比べ上昇し、従って総合満足度も上昇しました。「やりがい」や「企業風土」が高く、「待遇」と「人事考課」が普通である傾向は前年度と同じでした。また、30歳代の「待遇」と「人事考課」については、改善傾向にあるものの、他の年代に比べて低い水準でした。この調査結果を制度・処遇改善の検討に役立て、具体的な取り組みを行っています。

「安全の『見える化』の推進」 労働災害「0」を目指して

鴻池組は、建設工事における重要な社会的要請である災害「0」を目指して、さまざまな取り組みを行っています。2016年度の安全衛生・環境管理方針においては、「意識し、意識させる安全管理」を取り組みの柱のひとつに位置づけ、安全の「見える化」を積極的に推進しています。

安全の「見える化」とは、通常は目に見えない工事現場における危険性・有害性を可視化(見える化)することにより、現場作業に従事する方たちにそれらをはっきりと意識してもらい、労働災害を未然に防いでいくという取り組みです。鴻池組の現場では、災害「0」を目指して従業員と協力会社の方たちがお互いに知恵を出し合い、さまざまな安全の「見える化」を実施しています。

取り組み事例(東北支店) 車両逸走防止への取り組み

東北支店では、2015年、斜路に停車した工事用車両の逸走による労働災害が発生しました。同支店ではこの災害の発生を受け、同様の災害は二度と起きないという強い決意のもとに、現場事務所・現場内で駐車する全ての車両に車止めを使用することをルール化しました。これを踏まえ、現場作業従事者はもちろんのこと、新規入場者、来賓にも一目で分かるように、車止め使用啓発看板を作成し、現場事務所・現場内駐車場または現場ゲート正面に設置しています。

また、車止めを使用する際に、安全協会より配付した「指差し呼称マグネット」を貼付し、「車止めヨシ!!」と指を差して呼称確認することで、災害の防止に努めています。



「来てくれてよかった」といわれる会社になる地域社会との関わり

鴻池組では現場見学会の開催や地元行事への参加を積極的に行い、地域の皆様とのコミュニケーションを図っています。開かれた現場運営を目指すことで、工事への理解を深めていただくとともに、特に地域の子どもたちには、普段できない体験をしてもらいたいと考えています。

「親子現場見学」

月浜第二水門災害復旧工事は、東北地方太平洋沖地震およびその後襲来した津波により被災した水門を復旧するものです。水門の完成により、洪水時の逆流防止・高潮時の塩水遡上防止が図られます。また津波からの被害の軽減など様々な効果が期待されています。

当工事でも積極的に現場見学会を行っています。2016年8月に開催した親子現場見学会では、ユニークな取り組みとして水門本体の側壁を使って壁画製作を行いました。

今後も見学会を通して地域の皆様と直接対話し、工事の安全性や意義をご理解いただくとともに、様々な楽しみを提供するための工夫も行っていきます。



▲ 壁画製作の様子



▲ 完成した壁画

従業員として、母として

東北支店 月浜水門工事事務所 事務員 生出 奈々



宮城県石巻市一筋、専業主婦歴10年以上の私が鴻池組にお世話になってはや1年、たくさんの学びのチャンスがあり、毎日職場にくるのが楽しみです。今回、3人の子どもたちを現場見学会に参加させていただきました。私自身、子どものころに参加した海岸の堤防に絵を描くイベントを楽しんでいた出来事として鮮明に記憶しているのですが、まさか企画側として自分の子どもにもこんな素敵な経験をさせてあげられるとは思いませんでした。子どもたちが私の職場に直接触れたことをきっかけに、家庭でも職場の話をよくするようになり、親子の会話がとても増えました。「お母さんいつも仕事頑張ってくれてありがとう」なんて夢みない言葉もかけてもらい、私にとっても忘れられない思い出となりました。建設現場が地域の方々にとって身近なものとなるよう、今後も見学会等のイベントが行われる際には、自身の経験を活かして積極的に企画に携わりたいと思います。

自分で仕事を開拓していける職場

経営管理本部 法務部 課長 西村 智久



鴻池組に入社して感じたこと

2015年1月から社内弁護士として勤務しています。かつて地方自治体、民間企業の法務部に所属していた経験があり、鴻池組入社の際には、それら2つの組織と比較して、法務担当者が少ないことに驚きました。

鴻池組の事業規模を考えれば、十分に対処できていない法的なリスクがあるのではないかとも感じましたが、この印象はネガティブなものではなく、自分で仕事を開拓していけるチャレンジングな職場だと捉えました。

弁護士としての資格・知識を業務に活かす

社内弁護士として、内部統制システムの構築に関わっています。近年、企業に求められる内部統制のレベルは確実に高まっていますので、形式を整えるだけでなく、実効性のある内部統制システムへと改善を進めたいと考えています。

また、定期的に社内研修の講師を担当しており、基本的な法令知識に加え、建設業で発生しがちな紛争類型、関連判例を紹介し、実務に生かせる形で情報を提供するように心がけています。

最近では、事業リスクを自ら考える経験をしてもらうことを目的に、私が入社後に経験した事例を紹介し、想定されるリスクの抽出、対処方法を議論してもらうスタイルの研修も試みており、好評を得ています。

企業にとって法的紛争は、可能な限り避けるべきものであり、企業法務は、紛争を未然に防止する「予防法務」が中心でした。しかし、事業を進めるためには、リスクを取って攻めることが必要な場面もあります。私は、紛争リスクのある案件を扱うときは、客観的な事実の洗い出し、当事者の属性・利害状況の把握、主張の法的分析、訴訟に至った場合の結果の想定を踏まえて、リスクを最小限化しながらも当社の正当な利益を追求するための戦略を検討しています。

弁護士の重要なスキルに戦略立案・交渉能力がありますが、「攻めの法務」にはこの能力が重要な役割を果たすと考えています。

自分の未来、鴻池組の未来

法務部の新設は、鴻池組のコンプライアンス意識の高まりを示すものと捉えています。2017年には、社内弁護士を増員し、法務体制のさらなる充実も図られる予定です。しかし、法務部が他部署とうまく連動できなければ、実質的なコンプライアンスの向上は望みません。

まずは、私個人と法務部の活動を知ってもらい、業務を通じて社内の信頼を獲得することから始めたいと考えています。法務部が他部署から頼られる存在になってこそ、鴻池組のコンプライアンスは高まっていくものと考えています。

弁護士の使命は「社会正義の実現」にあり、それは、社内弁護士であっても変わるところはありません。

鴻池組の事業が社会に貢献すること、ステークホルダーの皆様にも利益をもたらすこと、鴻池組の従業員が健康で安定した生活を送れること、そのいずれもが「社会正義の実現」という弁護士の使命に合うものです。

私は鴻池組の事業を通じて、弁護士の使命を果たしていきたいと考えています。

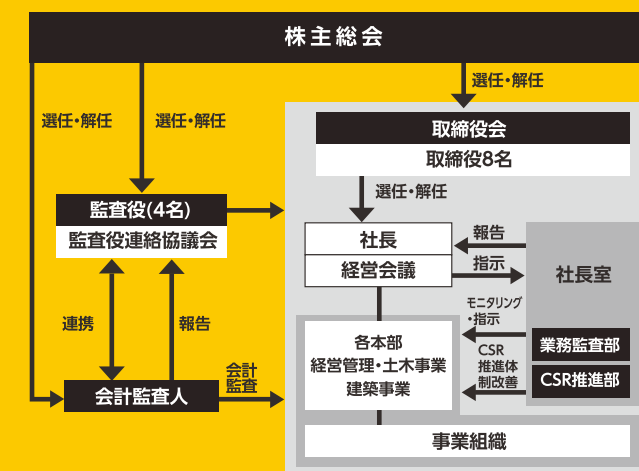
「コーポレート・ガバナンス」

取締役会は8名で構成されており、機動的な人事を行うために任期を1年としています。同会では経営計画や重要な組織変更などについての意思決定を行っています。

経営会議は、会社経営に関する重要事項の審議を行うとともに、各本部長およびその他の業務執行責任者が会社の業務執行に関して意見を述べる場として定期的に開催されています。こうした経営層の意思疎通を欠かさないことで、バランスの取れた経営判断を行う体制としています。

業務監査部は業務運営の監査・モニタリングや改善指示などを、CSR推進部はCSR推進体制の改善を行っており、それぞれ社長室に属し、独立した組織となっています。

監査役は4名で、年4回および必要に応じ随時開催される監査役連絡協議会では、監査方針の決定、会計監査人からの報告聴取、必要に応じて取締役などからの報告聴取を行うとともに、監査結果などについて監査役相互に意見・情報交換を行っています。



「CSR推進体制」

鴻池組のCSR推進体制は、社長を委員長とし、関連役員をメンバーとする「CSR委員会」を中心に構築しています。同委員会は、CSRの取り組みに関する施策などの意思決定機関として、CSR推進活動の定着と継続を図っています。さらに「CSR委員会」の下部組織として「倫理・コンプライアンス委員会」、「リスク管理対策委員会」を設置し、CSR推進活動を総合的に実践する体制を整えています。

また、CSR推進専任部署として本社社長室に「CSR推進部」を設置し、CSR推進計画の策定、CSR推進体制の継続的改善、CSRに関するモニタリング、CSR関連委員会の運営、CSRに関する社内啓発活動など、専属者による部門横断の取り組みを企画、実行しています。



変化しつづける社会からの
要望にこたえる

組織



Governance

さらなる信頼の獲得 に向けた組織づくり

鴻池組では、これまでもコンプライアンス意識向上のためのルールづくりと周知、また、ガバナンス強化に向けた体制整備を進めてまいりましたが、ステークホルダーからさらなる信頼をお寄せいただくに足る会社になることを目指し、2016年4月1日付けで左記の組織再編を実施いたしました。

今後もあらゆるステークホルダーに対するコミュニケーションの深化を図り、強固な信頼関係構築に向けた組織づくりに努めてまいります。

ガバナンス強化に 向けた組織変更

- 1 社長直轄部門として「社長室」を設置
- 2 「社長室」の中に「CSR推進部」および「業務監査部」を設置
- 3 従来、経営管理本部 経営企画部 CSR 広報課が担当していた CSR 推進に関する業務は「CSR推進部」に移管
- 4 経営管理本部 総務部 法務課を法務部として独立